

別記様式第1号（第4条関係）

木津川市子ども・子育て会議 開催結果要旨

会 議 名	令和3年度第1回木津川市子ども・子育て会議		
日 時	令和3年7月19日 午後1時30分～午後3時30分	場 所	木津川市役所 第2北別館2階会議室
出 席 者	委 員	別紙のとおり	
	その他出席者	なし	傍聴人の数 7人
	席 務	こども宝課	■公開 □非公開 □一部非公開
議 題	<p>1 開会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 第2期木津川市子ども・子育て支援事業計画に係る進行管理について【資料1】</p> <p>(2) 木津川市公立保育所民営化等実施計画の1期計画期間に係る検証報告について【資料2】</p> <p>(3) 木津川市公立保育所民営化等実施計画の変更（案）について【資料3】</p> <p>(4) 幼児教育施設の在り方の検討について【資料4】</p> <p>(5) その他</p> <p>・教育・保育施設従事者に係る新型コロナウイルスワクチン接種について</p> <p>4 閉会</p>		
会議結果要旨	<p>1 開会</p> <p>司会進行により開会。事務局より人事異動等で委嘱変更となった新しい委員の委嘱状・任命状の机上配布と会議成立要件定足数の報告。（市長あいさつ及び各委員紹介は割愛）</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>安藤会長より、本日の会議録の署名委員について、会長のほか伊瀬委員を会長から指名された。</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 第2期木津川市子ども・子育て支援事業計画の進行管理について、資料1に基づき説明</p> <p>(2) 木津川市公立保育所民営化等実施計画の1期計画期間に係る検証報告について、資料2に基づき説明</p>		

	<p>(3) 木津川市公立保育所民営化等実施計画の変更(案)について、資料3に基づき説明</p> <p>(4) 幼児教育施設の在り方の検討について、資料4に基づき説明</p> <p>(5) その他 教育・保育施設従事者に係る新型コロナウイルスワクチン接種について、保育従事者の接種状況について</p> <p>4 閉会</p>
<p>会議経過要旨</p>	<p>1 開会 事務局より、司会進行・開会。市長あいさつ及び各委員紹介は、新型コロナウイルス感染症対策により短時間での会議を執り行うため、割愛させていただき旨のお詫びと、会議成立要件定足数の報告。 子ども・子育て会議は、地方自治法、木津川市子ども・子育て会議条例を設置根拠として設置される市の附属機関である旨等説明。</p> <p>2 会長あいさつ 暑い中、多くの方々にご出席いただきお礼を申し上げる。コロナの状況も先が見えない中、迅速に充実した会議になりますよう皆様をお願い申し上げ進めてまいりたい。 本日の会議録の署名委員については、伊瀬委員を指名する。</p> <p>3 議事 主な意見・質疑等はつぎのとおり (○：質疑・意見 ⇒：質疑に対する返答)</p> <p>(1) 第2期木津川市子ども・子育て支援事業計画に係る進行管理について 〈資料1〉に基づいて説明。 【質問・意見】 ○なし</p> <p>(2) 木津川市公立保育所民営化等実施計画の1期計画期間に係る検証報告について 〈資料2〉に基づいて説明。 【質問・意見】 ○木津川台保育園民営化の前後の定員数が書かれているが、今の時点で何人在籍しているか。 ⇒令和3年4月15日現在保育利用が113名、1号は9名在籍している。 ○保護者アンケートについて、保育サービスの評価というのはとても</p>

難しく、これはあくまで利用者のアンケートとして見ている。民間園は5年に1回第三者評価を受けているが、公立保育園は受けられていない理由はあるのか。

⇒他の自治体で公立の保育施設でも第三者評価を受けているところはあるが、本市では京都府の運営基準に基づく監査を受けているところである。監査は年1回を受けているが、第三者評価まで至っていないため、今後は考慮していかなければと考えている。

(3) 木津川市公立保育所民営化等実施計画の変更(案)について

(4) 幼児教育施設の在り方の検討について

〈資料3〉〈資料4〉に基づいて説明。

【質問・意見】

○保育ニーズの高まりにより、保育園を存続するという流れで良かったと思う。幼稚園の利用推移も資料で良くわかったが、幼稚園だけでなく、今回存続の保育園の年齢別クラス数と在籍数を教えてほしい。

⇒現在の状況は、

相楽台1歳児1クラス11名、2歳児2クラス7名と12名、3歳児1クラス20名、4歳児1クラス16名、5歳児1クラス6名。計72名。

相楽は0歳児1クラス6名、1歳児1クラス20名、2歳児1クラス28名、3歳児1クラス30名、4歳児1クラス30名、5歳児1クラス30名。計144名。

南加茂台は0歳児1クラス1名、1歳児1クラス16名、2歳児2クラス17名と12名、3歳児2クラス16名と16名、4歳児2クラス19名と18名、5歳児1クラス32名。計147名。

木津保育園分園0歳児1クラス6名、1歳児1クラス12名。計18名。

保育園の変更の至った理由は、幼児教育・保育の無償化が大きく、翌年令和2年4月の保育の申込が非常に多かったため、計画変更を行った。コロナの影響で増減はあるが、子ども・子育て支援事業計画の第2期を進めるにあたって、確保数がこのままだと見込めないことから、当面は計画変更をさせていただきたい。その他、特別支援のお子様が増えているのが最近の現状であり、加配措置や障害児保育検討会議を通して関係機関と連携した上で、望まれる形で利用していただけるようにと考えている。

○この幼稚園利用園児数を見て、非常に危機感を覚えている。資料を読むと園児数が減るから廃止・統合の方向に進めるというもので、マイナス方向に受け取られているように感じた。保育ニーズの高まりにより減少したとあるが、本当に無償化の影響だけなのか。各園の課題やきめ細やかな現状、幼稚園全体としての減少につながる原因は何か、もう少し細かな分析があってしかるべきだと思う。

木津川市外に通われている方が非常に沢山おられる。通園において選択肢があって良いことだが、この児童に対して市からの財政支援は一切していないのか。木津川市の子どもは木津川市で育ててほしいと思う。600人近い子どもたちが市外の幼稚園を利用しているが、戻ってきてもらうために各園もしくは幼稚園全体で取り組むべきものは何かといった建設的な進め方をすることが欲しいし、丁寧に検証する必要があるのではと思う。

市内幼稚園3園を経験したため、地域性の違い等は把握しており、重度の障がいのある子どもを受け入れてきた。地域での大事な役割があるのではないかと思う。もともと相楽郡内に幼稚園がなく、木津に初めて幼稚園が出来た。

相楽幼稚園は、相楽地域に根差した幼稚園を作ってほしいといった地元の要望で作られた。昭和52年に設立され、一度廃園の話が出たが園児数が再び増加し話は流れた。相楽幼稚園は、地域との連携を未だに強く持っている園である。後に高の原地域が開発され、高の原幼稚園が出来たが、こういった充実した施設があることで、木津川市に転入してこられるのではと思っている。

また、近隣の市町の幼稚園の人口、該当幼児数と公立・私立の幼稚園・認定こども園・保育所の数など細かな検討材料として準備していただけだと思う。慎重に検討していかなければならない内容なので、丁寧な資料が必要であるため、このままこの方向性で進めるのはいかがなものかと思う。

○社協で地域福祉に携わっているが、これだけの子ども達が市外に通っていることに驚いている。子どもにとって通園は近くの方が良いに決まっているし、近くに友達がいて、一緒に大きくなって行くことで地域に愛着が生まれるものだと思う。出来るだけ選択肢が沢山ある市であって欲しいと思う。

(5) その他

教育・保育施設従事者に係る新型コロナウイルスワクチン優先接種の状況について報告。公立保育園では接種希望者222名中192名、私立認定こども園及び地域型保育施設では350名中324名の方、公立幼稚園では28名中24名の方に接種済みである。

優先接種方法としては、京都府の大規模接種会場及び本市で現在実施のワクチン接種のキャンセル分を順次接種していただいている。

【質問・意見】

○なし

【事務局より議事(4)について会議継続進行の提案】

安藤会長に代わり、阪本委員が会長の職務代理として進める。

【事務局より】

⇒幼児教育施設の在り方の検討については、色々いただいた意見は真摯に受け止め、今後の進行につなげたい。

1点目の幼稚園の通園区域については、保護者の自由な選択肢の中で、幼稚園は学校教育法での区域設定が無い中で、本市はこういった状況になっている。

2点目の財政支援については、幼児教育・保育の無償化により、私立幼稚園通園の保護者に対し、上限の中で財政支援を国府市から補助される。

障がい児については、公立幼稚園・保育園では今までからもケアの必要な子どもを教育・保育しており、保護者からの相談の中で、加配保育士を付けている。

4点目のきめ細かい分析について、本日の資料以外の分析も進めているが、現段階ではあり方の検討ということで資料を出していることをご了承願いたい。また、分析資料を添えて皆様にもご報告をさせていただきたい。

近隣の府下の幼稚園の状況について、京田辺市は幼保再編で令和3年4月からパブリックコメントを実施されている。本市に比べ小学校区単位で幼稚園があるため数は多く、幼稚園の統合を進め公立幼稚園数を減らすという計画を策定されているところである。

奈良市は、早くから幼保再編で公立幼稚園・保育園を減らし、認定こども園の設置を進めている。設置は民間主導で公募し、公立幼稚園・保育園の数を減らしながら進めている。

	<p>⇒先程、幼児教育施設の在り方の検討のご意見をいただいた件について、木津地域に公立幼稚園があり、合併し加茂・山城地域からも通えるようになった経緯がある。公立幼稚園の保護者が幼稚園に望まれること、また様々な声を聞いているとベテランの先生が支援を必要とする子どもをきめ細やかに見てくれるからと公立園を選んでいただいている。しかし、幼児教育・保育の無償化が大きな波となり、現在幼稚園バスを走らせ、京都府下でもないサービスである給食提供を行い、その中で預かり保育の実施や内容を充実させていく中でも、園児数が減っているのは紛れもない事実である。</p> <p>未就学児童はしばらく横ばいだが、今後減少していく事が見込まれる。市としては、この1～2年ではなく10年20年を見据えた政策を打つことが必要となる中で、今すぐの話ではなくこういう形で検討していきたいと考えている。今後幼稚園の在り方検討を重ねると同時に、一層のサービス充実を図ってまいりたい。</p> <p>また、いづみ保育園・やましる保育園を認定こども園化することで、市内の教育・保育施設の受入体制を整え、その中で保護者ニーズにも対応して行くと考えます。</p> <p>本日の提案は、そういった在り方について検討を進めさせていただきたいということで、提案させていただいた。</p> <p>【質問・意見】 ○なし 4 閉会</p>
<p>その他特記事項</p>	<p>特になし</p>
<p>署名欄</p>	<p>木津川市子ども・子育て会議 会長</p> <p style="text-align: center;">安藤 和彦</p> <hr/> <p>木津川市子ども・子育て会議 委員</p> <p style="text-align: center;">伊瀬 祐美子</p>